

わたしたちの予算が「まちづくり」のためにどのように使われたかを報告します。



令和
3年度

わたしたちのまち「越前町」の決算報告

■全会計の決算状況

令和3年度の一般会計、特別会計、事業会計を合わせた歳入総額は223億3,581万7千円で、前年度より35億4,405万8千円の減、歳出総額は215億1,827万3千円で、前年度より36億9,234万2千円の減となりました。また、歳入総額から歳出総額を差し引いた収支は、8億1,754万4千円の黒字となりました。

そのうち、教育や福祉、土木など一般的な行政運営をまかなう一般会計では、歳入が149億8,662万8千円で、前年度より34億8,360万9千円の減（18.9%減）、歳出が142億9,210万6千円で、前年度より35億2,141万8千円の減（19.8%減）となりました。

(単位：千円)

区 分 会 計		歳入決算額		歳出決算額		歳入歳出 差引残額 (A) — (B)	
		(A)	対前年度比 (%)	(B)	対前年度比 (%)		
一 般 会 計		14,986,628	▲ 18.9	14,292,106	▲ 19.8	694,522	
特 別 会 計	国民健康保険事業	2,396,385	4.9	2,325,762	3.5	70,623	
	介護保険事業	2,453,616	2.4	2,319,368	▲ 0.6	134,248	
	後期高齢者医療事業	285,913	▲ 0.9	284,191	▲ 0.8	1,722	
	簡易水道事業	415,221	▲ 21.5	422,035	▲ 19.6	▲ 6,814	
	公共下水道事業	601,071	▲ 18.9	596,255	▲ 18.4	4,816	
	集落排水事業	280,495	▲ 6.0	276,558	▲ 5.7	3,937	
	温泉事業	17,503	▲ 81.0	14,194	▲ 84.5	3,309	
	農林漁業体験実習館事業	23,159	7.1	23,159	7.1	0	
	土地区画整理事業	1	▲ 100.0	1	▲ 100.0	0	
事業会計	上水道事業	収益的収支	253,926	▲ 5.8	229,463	▲ 10.1	24,463
		資本的収支	132,882	49.9	182,448	21.4	▲ 49,566
	国民健康保険病院事業	収益的収支	312,276	2.8	292,755	▲ 1.5	19,521
		資本的収支	176,741	249.4	259,978	120.0	▲ 83,237
合 計		22,335,817	▲ 13.7	21,518,273	▲ 14.6	817,544	

※決算額の千円未満を四捨五入しています。

■一般会計・歳入決算の状況

一般会計の歳入総額は、前年度と比べて34億8,360万9千円減少しました。

減少した主な要因として、新型コロナウイルス感染症対策緊急支援としての特別定額給付金支給事業（一人当たり10万円の給付事業）が昨年度限りで完了したことなどにより、国庫支出金が22億8,833万4千円減少（55.5%減）したことや、役場本庁舎の完成に伴う起債の借入減により、町債が16億4,530万円の借入減（56.5%減）したことなどがあげられます。

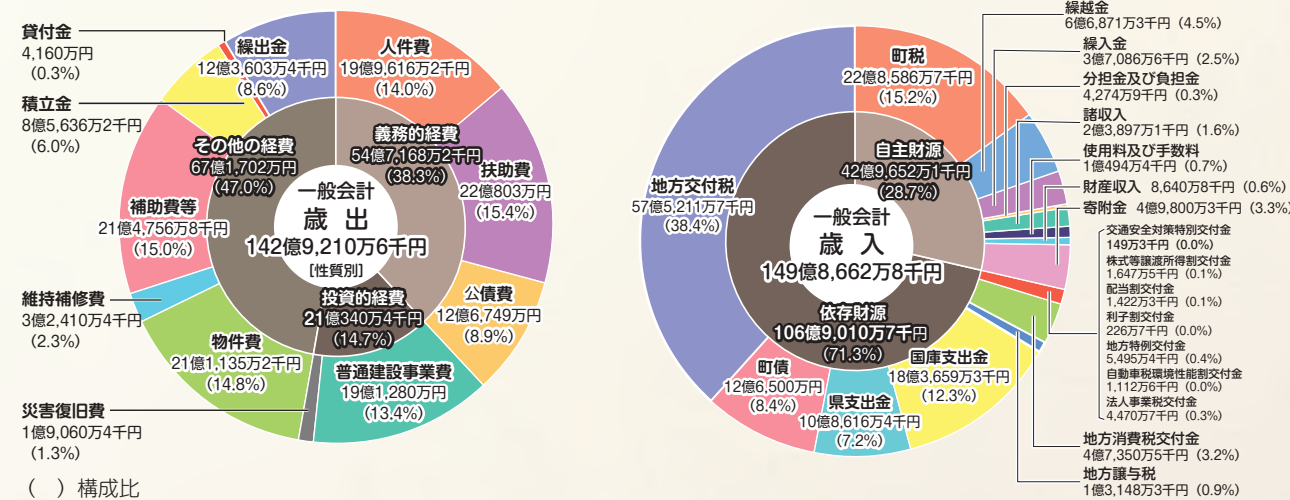
一方で、地方交付税が4億1,238万円増加（7.7%増）、ふるさと再生寄附金（ふるさと納税）が3億3,505万4千円増加（212.8%増）するなど、大幅増となった項目も見られます。

■一般会計・歳出決算の状況

一般会計の歳出総額は、前年度と比べて35億2,141万8千円減少しました。

減少した主な要因として、特別定額給付金支給事業の完了により、補助費等が21億1,824万3千円減少（49.7%減）したことや、役場本庁舎が完成したことに伴い、普通建設事業費が19億2,154万1千円減少（50.1%減）したことなどがあげられます。

また、子育て世帯臨時特別給付金事業（高校3年生相当までの児童一人当たり10万円の給付事業）などの実施により、扶助費が1億6,944万3千円増加（8.3%増）、ふるさと納税の大幅増に伴い、積立金が3億4,994万3千円増加（6.9%増）しました。



快適で安全に住めるまちづくり

●人に優しい道路網の整備

安全・安心に通行できる道路を確保するため、国の補助金を活用しながら、町道の改良や維持補修、消雪設備の整備などを行いました。

6億1,302万3千円

●防災・救急体制の充実

災害時の緊急情報周知を強化するため、老朽化の進んだ越前地区の防災行政無線の機器を更新しました。

3億6,843万8千円



▲機器が更新された玉川中継局

誰もが健康で暮らしやすさを実現できるまちづくり

●子育て支援の充実

少子化対策として、出生記念のお祝い品と出産育児金を給付しました。出産育児金は、これまでの制度を拡充し、第1子から給付の対象とし、第3子以降の給付額を大幅に増額しました。

1,055万9千円

人が輝き豊かな心が満ちあふれるまちづくり

●生涯スポーツの振興

新型コロナウイルス感染症の影響により延期されていた東京オリンピック・パラリンピックが開催され、本町においても聖火リレーやホッケー競技のパブリックビューイング等が開催されました。

328万8千円



▲町内でも聖火リレーが行われました

人と仕事の活力みなぎるまちづくり

●農山漁村の活性化

新たに農林水産業に従事する人材の確保と定住促進、地域の農林水産業の活性化を図るために、農林水産業従事者単身用住宅を整備しました。

2,974万8千円



▲農林水産業従事者単身用住宅「ラ・クリヤ」

●町内小売店、越前焼窯元等への支援

新型コロナウイルス感染症の影響により、売り上げが減少した町内小売店等を支援し、町内における消費喚起を図りました。また、越前焼窯元や中小企業者の事業継続のための支援を実施しました。

1億1,244万4千円

●子育て世帯への支援

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける子育て世帯の生活支援として、高校3年生相当までの児童を養育する世帯に対し、給付金を支給しました。また、低所得の子育て世帯に対しては、特別給付金を支給しました。

3億507万8千円

●行政拠点施設の整備

平成30年度から始まった本庁舎整備事業は、令和3年度の公用車庫の建設、駐車場整備等の外構工事の実施により、全ての工事が終了しました。

1億3,438万9千円

新型コロナウイルス感染症対策に係る主な事業

●住民への支援

新型コロナウイルスワクチンの接種体制を整備し、希望者へワクチン接種を行うことで感染症の拡大防止と重症化予防を図りました。

1億7,486万4千円



越前かに太郎の家計簿

前ページの「令和3年度一般会計決算の歳入額と歳出額（性質別）」を1,000分の1にし、「越前かに太郎」の1年間の家計に置き換えてみました。

収入

①給料	229万円
・町税（町民税や固定資産税など、みなさんから納められた税金）	
②財産・臨時収入	97万円
・使用料（町の施設や設備の利用料など）	
・負担金（町の事業で利便を受ける人が負担するお金）	
・諸収入（貸付金の元利収入や団体・個人からの負担金など）	
・財産収入（町の土地などの売却代金）	
・寄附金（個人や団体から寄附されるお金）	
③貯金の取崩し	37万円
・繰入金（町が積み立てているお金（基金）の取崩しや特別会計・企業会計から受け入れるお金）	
④前年度の残金	67万円
・繰越金（前年度決算からの繰越金）	
小計（A）※自主財源	430万円
⑤支援金	942万円
・地方交付税（国から交付されるお金）	
・国・県からの補助金（法律などに基づく交付金や事業の実施に対する補助金）	
⑥借入れ	127万円
・町債（銀行などからの借金）	
小計（B）※依存財源	1,069万円
収入合計（A）+（B）	1,499万円

支出

①生活費	625万円
・人件費（各種委員の報酬や職員給与に係るお金）	
・物件費（施設の管理費や事業の委託料など）	
・補助費等（団体などに対する負担金や補助金）	
②医療費	221万円
・扶助費（子どもや高齢者、障がい者の福祉などに係るお金）	
③借金の返済金	127万円
・公債費（町債の元金及び利子の支払いに係るお金）	
④家の増築や車の購入費	210万円
・普通建設事業費（町の施設や道路などの新・増築や大規模な設備の購入に係るお金）	
・災害復旧費	
⑤修繕費	32万円
・維持補修費（町の施設の修繕に係るお金）	
⑥子どもへの仕送り	124万円
・繰出金（特別会計や事業会計に支出されるお金）	
⑦貯金	86万円
・積立金（基金に積み立てるお金）	
⑧知人への貸付金	4万円
・貸付金（団体などに対し貸し付けるお金）	
支出合計	1,429万円

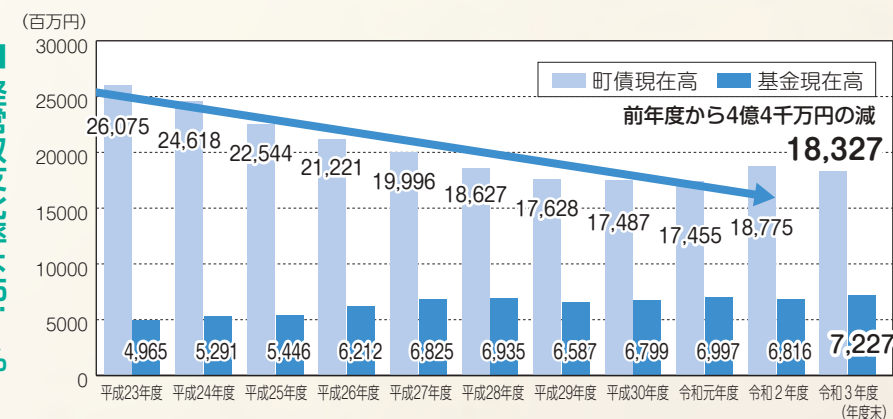
令和3年度末の一般会計、特別会計、企業会計を合わせた町債（借金）の現在高は183億2,697万2千円で前年度より4億4,770万7千円の減少、基金（貯金）の現在高は72億2,667万7千円で前年度より4億1,090万7千円の増加となりました。

町債の発行（借金）は、元利償還金（返済金）を上回らないよう、計画的に事業を実施するなど、町債現在高を着実に減少させ、財政の健全化を進めています。

また、基金は、地方財政法に基づき、前年度の余剰金の半分を積み立てることにより、事業の実施や収入の減少など、将来的な財政負担に備えています。

町民1人あたり現在高
町債（借金）約90万円
基金（貯金）約35万円

※それぞれの現在高を、令和3年度末の越前町の住民基本台帳人口20,464人で割って算出しています。



経常収支比率は95.1%
財政構造の弾力性を表す経常収支比率は95.1%となり、普通交付税の大幅増などにより、前年度と比べて2.5ポイント改善しましたが、財政の硬直化が依然として高い水準で進んでいます。（経常収支比率は70%から80%が理想とされています）

町債（借金）と基金（貯金）の年度末現在高の推移

わたしたちのまちの財政状況

健全化判断比率と資金不足比率は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律により、各年度決算に基づき算定されます。この比率には、法律で定められた早期健全化基準や経営健全化基準があります。比率のいずれかが基準を超えた場合は、財政健全化計画や経営健全化計画を策定し、財政の早期健全化や公営企業の経営の健全化を図らなければなりません。

越前町の令和3年度決算ではすべての比率が基準を下回り、財政は「健全」となっています。

令和3年度決算の越前町の財政指標

財政指標区分	越前町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	黒字のため健全	13.73%	20.0%
連結実質赤字比率	黒字のため健全	18.73%	30.0%
資金不足比率	全会計で資金不足なし	20.0%	—
実質公債費比率	8.8%	25.0%	35.0%
将来負担比率	15.4%	350.0%	—

令和3年度決算の健全化判断比率と資金不足比率は「健全」
実質公債費比率は8.8%
将来負担比率は15.4%

「実質公債費比率」とは、町債（借金）の返済額などが標準財政規模（※）に占める割合です。町債の返済額などには、一般会計だけでなく、上下水道・病院の公営企業会計、ごみ・し尿処理や消防の業務を行う一部事務組合に対する町からの負担金のうち、団体の借金の返済に充てられたとみられる額も含まれています。この比率が高いほど、町に対する借金に關係する負担が大きいこととなります。

普通交付税の大幅増や臨時財政対策債発行可能額が増となった一方で、大型事業の元金償還の開始による元利償還金の増により、単年度実質公債費比率は微増となりました。

一方で、比較的数字の高かった平成30年度の単年度実質公債費比率が算定対象から外れたことから、実質公債費比率は、令和3年度決算では8.8%となり（3か年平均）、前年度と比べ0.6ポイント改善しました。

（※）町税や普通交付税、各種譲与税・交付金など、使途が限定されない通常の年間収入の合計額

「将来負担比率」とは、町トータルの借金（将来負担額と呼ぶ）が標準財政規模に占める割合です。将来負担額は、次のものなどの合計です。

- ・町債（借金）の残高
- ・上下水道・病院の公営企業会計の借金の返済に充てる一般会計などの負担見込額
- ・職員の退職手当支給予定額

一方、基金（貯金）の残高など（充当可能財源と呼ぶ）があれば、将来負担額から控除することになります。

この比率が高いほど、現在背負っている借金などが将来財政を圧迫する可能性が高いこととなります。

町では、町債の残高の縮減や財政調整基金への積立てにより将来的な負担の軽減を図ってきました。

令和3年度は、公営企業の起債償還が進んだことや、基金残高の増、普通交付税の増により、将来負担比率は、15.4%となり、前年度と比べ10.5ポイント改善しました。

問合せ先 財政課 ☎ 34-8711

令和4年度9月補正予算の概要

予算規模

	補正前予算額	補正額	補正後予算額
一般会計	123億6,900万8千円	8,258万4千円	124億5,159万2千円
特別会計	61億5,924万2千円	1億2,713万1千円	62億8,637万3千円
事業会計	7億2,287万9千円	374万7千円	7億2,662万6千円
合計	192億5,112万9千円	2億1,346万2千円	194億6,459万1千円

9月補正予算の補正額は、次のとおりです。
（※補正額は6月補正後に専決した予算も含まれています。）

主な補正内容

■町シルバー人材センターの事務所移転先となる、越前町ふるさと特産加工場の一部を改修する経費を計上（719万円）

■新型コロナウイルス感染症による漁業経営への影響が危惧される中、原材料の需要増等により資材（魚箱）の価格が高騰しているため、町内の漁業者に対し資材購入費用のうち、物価上昇分を支援するための費用を計上（1,000万円）